

令和5年度第2回宮崎県農政審議会 議事要録

- 1 開催日時 令和6年2月15日（木）午前10時00分から正午
- 2 開催場所 宮崎県庁 講堂
- 3 出席者 別添出席者名簿のとおり
- 4 議事
 - (1) 開会
事務局が開会を宣した。
 - (2) 久保農政水産部長あいさつ
久保農政水産部長があいさつを行った。
 - (3) 会長選任
審議員の互選により、佐藤審議員が会長に選任された。
 - (4) 議事録署名者の選任
佐藤会長より栗原審議員と前原審議員の両名が議事録署名者に指名された。
 - (5) 議事
 - ア 日本一挑戦プロジェクト（グリーン成長プロジェクト）について
 - イ 令和6年度農政水産部の主な事業（案）について

審議員	資材価格高騰に対して、農産物が適正な価格で扱ってもらえないことが一番の課題。価格形成については、量販店や消費者になかなか理解してもらえないことが問題としてある。県においても県民に対して、適正な価格の重要性を訴えてほしい。
審議員	有機農業においても、国内の食料を賄うためにはどうすればいいのか真剣に考えなければならない。有機農業に関する技術等を早く農家に下ろせるよう県でも取り組んでほしい。
審議員	スマート農業に関して、今後は、スマート技術を基本的なところに落とし込んで、低コストで多くの農家が使えるような技術にしていく必要があると思う。
審議員	外国人材に関しては、やはり総合的な相談場所が必要。そこを通して管理団体や農家、自治体が連携し、ケーススタディを積み上げていくことが重要。人材に関する問題は農業が抱える問題の中のほんの一部ではあるが、持続可能な農業を支えるのは人材であり、とても重要である。
審議員	私は都城で酪農を営んでいるが、一番困っているのは堆肥処理関係。近隣住民からの苦情で作業が進まない。 また、堆肥の処理方法について、県はどう考えているのか。
事務局	農林振興局や普及センターに環境アドバイザーがいるので是非、苦情に関する相談をしていただきたい。 堆肥処理については、現在、牛の堆肥処理方法について検討を進めているところ。
審議員	農家経営に関する知識がないまま就農する方が非常に多いと感じている。農家が経営に関して勉強する場や農家が積極的に経営について学べる仕組みの構築が必要。こういう厳しい現状だからこそ、農家側もそこを努力しなければいけないと感じた。
審議員	今、県がやらなければならないことは、人材の育成であると思う。県の技術職員を育成して、農家への指導がしっかりとできるような体制を築いていただきたい。

(6) 閉会

久保農政水産部長があいさつを行った。
事務局が閉会を宣した。